

平成 29 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月22日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程において生徒の意欲や探究心を高める編成をして組織的な授業改善に取り組む。 年間行事計画において学校行事や生徒会活動等を充実させ生徒の主体的な活動の促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い興味・関心に対応できる教育課程の編成と個に応じたきめ細かい学習支援の体制づくりを進める。 放課後を使った日常的な学習指導や長期休業中の補習・講習の体制を整備する。 授業マナーの指導を通して生徒の学習意欲の向上・学習態度の改善を図るとともに、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を育む取組みを充実させる。 校外機関や中学校との協力を得て、生徒・教員双方向発信型の授業実践を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)学校及び各教科で定めた「育てたい生徒像」を反映した教育課程に基づいた学習支援を充実させる。 (2)放課後・長期休業中などを利用して、講習・補習の充実を図り、学力の定着を図る。 (3)生徒に身に付けさせたい力を明確にした、全科目統一書式に基づく年間学習指導計画を作成する。 (4)「思考力を伸ばすための授業実践集」・「逆さま歴史教育」に基づいた授業づくりを行い、学習成果発表会を設定する。 (5)知識技能を身につけさせたい授業においても、主体的、協働的な学びの学習を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)「育てたい生徒像」に生徒が近づき、また生徒のニーズや進路希望に沿った学習支援ができたか。 (2)長期休業中の講習・補習の講座数や参加生徒数が増えたか。 (3)生徒に身に付けさせたい力を明確にした単元指導計画や年間学習指導計画を作成できたか。 (4)基礎的な知識技能の定着とともに思考力・判断力・表現力が高まっているか。 (5)生徒による授業評価の項目における「かなり当てはまる」の回答率が増えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)カリキュラムの変更に伴い、生徒の基礎学力定着を図った。また、進路実現に沿った適切な指導ができた。 (2)長期休業中の呼び出し補習や進学に向けた講習などを実施し、実態の把握につとめた。 (3)(4)「思考力を持った生徒」を「育てたい生徒像」に基づいた指導が地歴科を中心に他の教科にも働きかけを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)教科、科目ごとに「生徒に身に付けさせたい力」を具体化する必要が求められる。 ・基礎学力の達成度が不十分の生徒も一部に見られ、補習の活用についての検討が必要である。 (2)講習や補習については生徒の学習ニーズをつかみ、周知方法を検討する必要がある。呼び出し補習は、成績不振の生徒中心に今後も強化する必要がある。 (3)(4)他教科も含めた12月の学習成果発表会を行い、生徒に思考力・判断力・表現力を高めさせるきっかけを作ったが、今後は授業実践の取り組みの中でその力を身につける試みが必要である。 ・生徒自身の授業へ取り組む意欲の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> (保護者) ・今後も希望する生徒に対して補習講習を実施してほしい。 ・普段の家庭学習をさせるような課題をお願いしたい。 (学校評議員) ・「学習成果発表会」や「逆さま歴史教育」で得られた成果を今後も授業に生かしてほしい。 ・授業改善の何を改善するのかを示して取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相互授業参観や学習成果発表会をとおして、全教科へ生徒に思考力・判断力・表現力を高めさせるきっかけを作るような授業実践を得ることができた。 ・生徒自身の授業へ取り組む意欲の向上を図るよう更に工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・更に生徒の思考力、判断力、表現力を高めたり、学ぶ意欲を引き出す授業実践を工夫する。 ・今後も相互授業参観や学習成果発表会を実施し、授業改善を推進する。 ・授業において、工夫、改善する具体的項目を示す必要がある。
2	生徒指導・ 支援	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの生徒が規範意識を持ち、地域に信頼される学校づくりをめざす。 ・生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で地域社会の一員としての規範意識を育む。 ・校内の教育相談体制を充実させるとともに、外部機関との連携を図り個に応じた支援体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)①「挨拶」「アイコンタクト」「リスペクト」を推進する。 ②服装・頭髪・遅刻・授業規律について、年間を通して担任、学年、グループと段階を追って指導を行う。 ③日常的に駐輪指導、校内巡回指導を行う。 ④定期的に自転車点検、自転車乗車マナー指導、登下校指導を行う。 (2)①養護教諭とスクールカウンセラー・教育相談コーディネーターを中心とした教育相談体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)①～④の取組により、地域社会の一員としての規範意識を育むことができたか(指導件数、近隣住民からの苦情件数、担当教員による評価)。 (2)①の取組により、校内教育相談体制の整備が進んだか。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)①②③④ ・服装・頭髪については、ごく少数指導を要する生徒がいるものの、大半の生徒は本校のルールを遵守している。 ・一部に遅刻が常態化した生徒がおり、十分な改善には至らなかった。 ・定期的に登下校指導を実施したが、目の届かない所で二人乗りや並列運転があると思われる。近隣住民からの苦情は減少したが、注意されたときの態度の悪さを指摘された件があった。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)①②③④ ・再登校指導を含む新たな指導体制が逆戻り・形骸化することのないよう、全学年での統一した指導と、情報の共有を図る。 ・遅刻指導は、家庭との連携を強化するとともに、教務上の措置についても検討する。 ・定期・不定期の登下校指導を継続しつつ、自転車乗車マナーや交通安全についての意識を更に高める工夫が必要である。また、明らかな法令違反があった場合は特別指導の対象とすることも検討する。 (2)① ・生徒情報を共有し、特に、様々な家庭の事情を抱えた生徒に対するよりきめ細かい配慮・指導が必要になると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> (保護者) ・自転車乗車マナーや交通安全についてはPTAも啓発活動に努力していきたい。 (学校評議員) ・十分に指導が行き届いていると受け取ることができる。 ・1年次～3年次の生徒の変化と指導の記録をまとめるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制服・頭髪について違反者の数は激減した。(10数名→数名) ・遅刻指導について、改善の見られない生徒に対しての指導が必要である。 ・養護教諭・スクールカウンセラーを中心とする相談体制は十分に機能し、多くの生徒が活用した(28名)。 ・授業中の携帯・スマホ使用による特別指導が3件発生した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年での統一した指導と情報の共有を図る。 ・授業妨害(携帯・スマホ使用等)に対する認識を教員間で統一し共有して指導を徹底する。 ・定期・不定期の登下校指導を継続していく。 ・ケータイ・スマホ安全教室を全学年に今後も実施する。 ・自転車乗車マナーや交通安全について意識向上を推進する。
3	進路指導・ 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の職業を意識したきめ細かなキャリア教育を推進し、生徒の自己実現を支援する。 ・一人ひとりの社会的、職業的自立を目指し、本校生徒の実情に沿った体系的かつ段階的なキャリア教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(1年)学習に意欲的に取り組み、基礎学力・基礎体力を身につけ、自己の興味・関心や適性を理解し、将来の職業を意識して進路を考えることができるようにする。 ・(2年)興味・関心を持った事柄に積極的に挑戦しようとする姿勢を育む。一方で将来を見据えた進路実現のための方策を示唆し、具体的な支援を行う。 ・(3年)自分の弱点や課題を自覚し、粘り強 	<ul style="list-style-type: none"> (1)(1年)進路講演会やガイダンスをとおして、職業について広く知り、仕事に就くまでに必要な学習等について理解を深め、進路の方向性を固めることができるように、各ガイダンスの目的を明確にして、事前事後の指導体制を充実させる。 (2)(2年)オープンキャンパスや分野別進路ガイダンスをとおして、具体的に就きたい職業やそれを実現するために必要な手立てや進学先を考えさせる。その時に適切な情報提供や助言が行えるように職員研修を充実 	<ul style="list-style-type: none"> (1)進路意識が充実し、それに伴う行動ができるとともに、自己実現ができた。(進路希望と実績の比較、オープンキャンパスや1日体験等への参加人数、ワークシート記述分析) (2)自分の適性を知り、情報収集をとおして必要な知識の定着や能力の育成、将来の目標が明確になったか。(ワークシート・振り返りシ 	<ul style="list-style-type: none"> (1)(1年)講演会等を通し進路意識が徐々に高まりつつある。 (2)(2年)オープンキャンパスにも多数参加し報告書内容も充実、目標が明確になりつつある。 (3)(3年)大学進学が増加、指定校推薦出願が増加、センター試験出願者も増加している。看護や保育など資格取得のため専門学校進学も多数いる。 ・看護体験等インターシップ参加者が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)講演会等のワークシートの記述等は概ね好評であるが、進路状況の結果からはAOや推薦に流れてしまう生徒が多い。 (2)将来の職業が具体的である進路(看護等)の者については、ある程度の学力や学習習慣の定着が見られるが、将来が未定の者について、基礎学力・学習習慣の定着をつけることが課題である。 (3)将来の具体的な職業まで見据えている者がよい成果を出している傾向があるので、講演会や面談等の機会を利用して、将来を意識させる工夫を 	<ul style="list-style-type: none"> (保護者) ・進路について、今後もいろいろな情報を与えていたできたい。目標を達成するために何が必要であるかを指導していただきたい。 (学校評議員) ・進路実績について、過去3年間と比べて今年はどうかを示してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンス(延べ13回)、インターシップ(25名)、看護体験(7名)、模擬試験(延べ70名)への参加人数が増えた。 ・大学入試センター試験受験者が昨年度より10名増えた。(39名→49名) ・教員向けの進路情報研修会(3回)を実施し 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタディサポートを利用した学習指導を検討する。 ・新1年から始まる教育改革に向けてベネッセClassi導入について検討する。 ・総合的な学習等の活動の振り返りの保存方法について検討する。

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月22日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			く取り組み、諦めずに克服しようとする姿勢を育む。	させ情報の共有や情報発信のあり方を改善する。 (3)(3年)安易な方向に流されることなく、受験方法等を明確にして、第1希望の自己実現を目指す指導を行う。そのための情報収集や情報提供の仕方、講習等の学習支援のあり方を検討する。	ト記述分析) (3)受験に耐えられる基礎学力、基本的な学習習慣が定着したか。また、意欲的に発展的学習に取り組めたか。(講習や模試の参加人数等)		実施していきたい。	・生徒の学力について、入学時と比べて3年後どれだけの付加価値をつけられたかを示せるとよい。	た。	
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会との交流や校種間連携を深め、生徒の校外活動を推進する。 ・地域が主催する行事に対して、本校生徒の部活動、委員会などでボランティア参加を促進し、授業においても近隣の小中学校との交流を図る。 ・学校からの情報発信を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校周辺の清掃等で、地域周辺の清掃活動や環境の保全に協力をする。 ・年間の学校説明会や中学校訪問において広報の方法や内容を全職員で取り組むものとして検討し、情報発信を強化する。 ・ホームページを中学生やその保護者を対象とした構成にし、閲覧数を増加させる。 ・地域、瀬谷養護分教室と連携した学校行事(文化祭等)にさまざまな分野での参加や協力を求め、学校からも地域行事への積極的な参加を図る。 ・授業や部活動において、近隣の小中学校との交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)年2回の地域清掃活動と上和田中学校との連携で実施する登校清掃活動を継続的に実施する。 (2)学校説明会や中学校訪問で配布するパンフレットやポスター、チラシを充実させ、積極的に情報発信を行う。 (3)ホームページの更新を必要に応じて行い、最新の情報を先頭に置く構成にすることで情報発信を進めていく。 (4)地域の文化的行事に参加し、本校文化祭でも多くの一般の方々を招き、交流を推進する。 (5)学校外へのボランティアや部活動レベルで福祉施設や近隣小中学校への訪問の機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)地域と合同した清掃活動・環境保全活動が行うことができたか。 (2)本校の取り組んでいる内容を的確に伝えられるよう配布資料、説明内容等を精選し、工夫に努めたか。 (3)ホームページの閲覧数が増加したか。または、本校の情報が的確に伝わっていることが学校説明会等でのアンケートによって示されたか。 (4)地域の行事に本校の生徒が参加し、文化祭でも地域交流ができたか。 (5)学校外へのボランティア参加生徒を増やし、関心が持てるよう活動したか。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)地域清掃活動と上和田中学校との連携で実施する登校清掃活動は継続的に実施できた。 (2)本校の取り組んでいる内容を的確に伝えられるよう配布資料、説明内容等を精選し、特に文化祭などを通して周知することができた。 (3)ホームページの閲覧数が増加している。部活動や学校行事の情報などデザインも刷新され、更新もこまめにしている。 (4)宮久保風揚げに参加し、昨年の文化祭で作成してくださった一般市民の風約90枚も連風として成功した。また、上和田自治会の薬王院双盤念誦を取材し、双盤を展示、ビデオも紹介することができた。地域の文化交流は定着している。 (5)学校外へのボランティアは福祉委員会などの活躍で96名の参加があり1,3年の参加が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)後半の地域清掃は天候悪化のため中止になった。特に冬は天候の影響を受けやすいので、時期を検討する必要がある。 (2)HPなどの更新回数を増やし、「学校だより」的な取り組みをより充実させていく必要がある。 (3)中学校訪問や塾などの情報ではどの程度の利用があるかもアンケートなどを使って調べてみたい。 (4)地域の行事や文化交流を進めるにはますます人的交流を深めていくことが肝要である。文化祭などの行事を通してさらに拡大していく必要がある。 (5)生徒のボランティアバンクを募って、アナウンスをしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> (学校評議員) ・宮久保風揚げ同好会との交流が継続されているようで大変楽しみである。今後は担当者や現在参加している生徒たちの後継者を育ててほしい。 ・ホームページなど情報の発信に工夫されているとともに更新回数を確実に増やしてほしい。 ・学校行事、ボランティア、地域交流は活性化されてきているが、部活動の加入率が減少していることが気にかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校清掃活動を継続的に実施した。 ・地域の文化交流は定着してきている。 ・学校外へのボランティアは福祉委員会などの活躍で盛況であった。 ・部活動の加入率は1年生が例年より向上した(51.6%→56.8%)。しかし、全体の加入率は低く(55.5%→53.7%)、途中で退部してしまう生徒も後を絶たない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮久保風揚げ同好会の活動は地域ぐるみの立派な生徒活動になってきた。また教員も若手教員を中心に文化継承を積極的に協力してもらえると期待できる。 ・来年度は学校行事として体育祭を開催する予定である。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の防災意識を高めるとともに防災体制の整備を進める。また、環境整備として、ごみの分別、清掃活動や緑化活動を推進する。 ・行動規範の確立に努め不祥事を起こさない組織力を高める。 ・職員の学校運営に対する積極性と使命感を高揚させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒向けにDIG(図上訓練)を総合的な学習の時間やLHRで実施する。 ・ゴミ箱等を含め清掃用具を計画的に刷新し、分別する意識が持てる環境整備をする。 ・地域の指定避難所としての役割を再確認し、発災時の対応について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)生徒向けにDIG(図上訓練)を実施して、災害に備える意識を醸成し、学校として備えるべきことを再確認する。 (2)清掃用具を刷新し、効率的な配置を考え、職員自らが教育環境の整備、校内美化を心がけ、日々の清掃活動の充実を図る。 (3)指定避難所開設のシミュレーションを行い、発災時の受け入れ態勢を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)の取組により、防災意識が高まったか。 (2)の取組により、生徒の美化意識・緑化意識が高まったか。 (3)指定避難所開設についての学校側の態勢が整ったか。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)入学直後の1学年で実施し、防災面はもとより学校周辺の地域を知る面でも効果があった。 (2)一部を刷新し、委員会活動等でも効果があったが、各清掃場所での教員の意識に差が大きく校内全体での美化の改善には不十分だった。 (3)関係部署等との連絡を密にし、避難所開設のマニュアル作成等の準備を始めた。 	<ul style="list-style-type: none"> (1)今年度は担当者が講師役となり、学年全体で実施したが、教員の防災意識を高める意味でも各クラス実施ができるようにしたい。 (2)生徒の美化意識を高めることはもちろんだが、各教員の美化意識を業務が多忙の中以下に高めていくかも課題である。 (3)実際の避難所開設訓練に際して、地域・市の担当部署等との連絡を密にしていかなければいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> (学校評議員) 防災訓練は地域でも行っているが大きなものではない。大和市で行われる総合防災訓練を視察されたいかがか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DIG、シェイクアウト訓練、「いのちの授業」講演会と年間を通して啓発活動ができた。 ・地域の指定避難所として役割を果たすため、地域の避難所生活施設運営委員会へ出席した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DIG等の訓練を引き続き実施していく。 ・事前予告なしの防災訓練を検討する必要がある。 ・避難所開設のための協議、手順を地域住民と問題点を指摘しながら検討していく。